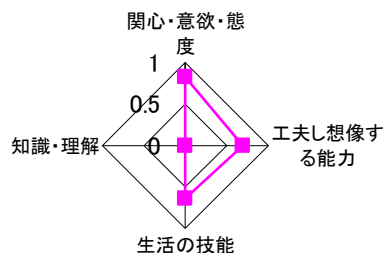


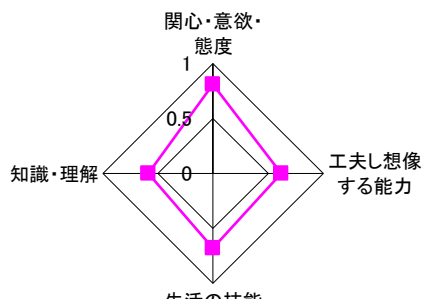
**内容別・観点別の分析 (様式2)**

1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	83%
工夫し想像する能力	69%
生活の技能	64%
知識・理解	/



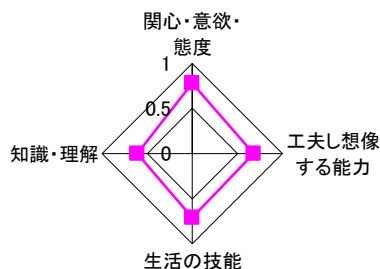
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	81%
工夫し想像する能力	62%
生活の技能	68%
知識・理解	59%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	78%
工夫し想像する能力	68%
生活の技能	71%
知識・理解	61%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

**指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)**

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができた。</li> <li>意欲の高さは逆に技能面で厳しい生徒が何名かいた。</li> <li>知識理解についてはまだ定期考査を行っていないのははっきりとしたことは言えないが、用語などの暗記は苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。</li> <li>知識・理解の達成率を高めるために、1回の授業のなかでの説明だけでなく、作業を進める中で必要な知識について個別に確認をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能面で劣る生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に行うようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。</li> <li>作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に向けてあまり関心を持つことができない生徒がいた。</li> <li>技能的には個人差が大きく、早く正確に作業ができる生徒とその逆の生徒がいた。</li> <li>知識理解については昨年度データになるが、よく理解できている生徒とそうではない生徒の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意見を参考にしながら教材を選び、飽きることのないように作業ごとの目標を決めて作品作りを進めていく。</li> <li>教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。</li> <li>作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に行うようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に関しては関心意欲の高い生徒が多く、作業もしっかりと行うことができています。</li> <li>教室での講義では、集中力を欠いてしまう生徒が何名かいた。</li> <li>知識理解に関してはできていない生徒とまったくできていない生徒との差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解の達成率を高めるために、1回の授業のなかでの説明だけでなく、作業を進める中で必要な知識について個別に確認をしていく。</li> <li>教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に行うようにする。また、必要があれば放課後などに作業の時間を確保する。</li> <li>作業が早く進んでしまった生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めたり、作業の遅い生徒の補助をすることで復習ができるようにする。</li> </ul>